

OS移行作業の自動化で作業工数を大幅削減

石油、化学、ガス、発電といった大型プラントの建設を手がける「東洋エンジニアリング」同社はサポート終了が予定されている旧バージョンのWindows OSが稼働する900台のPCを短期間且つ通常業務と並行で、最新バージョンのWindows OSへのマイグレーションを模索していた。



東洋エンジニアリング株式会社

住 所 千葉県習志野市茜浜2丁目8番1号
事業内容 プラント・エンジニアリング業
従業員 4,287名（連結）2017年3月31日現在
URL <http://www.toyo-eng.com>



課題

- ▶ サポート終了が予定されているOSが稼働する900台のPCを、短期間且つ通常業務と並行で最新OSへの移行作業が必要
- ▶ 海外へ持ち出したPCも十分なサポートが必要
- ▶ パッチ当て及びキッティング作業に要する作業量の削減が必要

Ivanti 導入後



効果

- ▶ 3ヶ月で900台の古いOSが稼働するPCのOSを、最新OSにマイグレーション完了
- ▶ 遠隔から、海外の対象PCに対するリモートサポート機能で、効率的なサポートを実現
- ▶ パッチ当て作業、キッティング作業の大幅な省力化を実現

■約900台のサポート終了が予定されている、旧バージョンのWindows OSを、如何に迅速に最新バージョンのWindows OSに移行するか

東洋エンジニアリングは、石油、化学、ガス、発電といった大型プラントの建設を手掛ける大手プラントエンジニアリング会社だ。同社は旧バージョンのWindows OSのサポート切れに伴い、PCのOSを最新バージョンのWindows OSに全面移行するプロジェクトを行っていた。このプロジェクトを成功に導いたのが、マイグレーションツールとして活用した総合IT資産・セキュリティ管理ツールのIvantiだ。プロジェクトはIvantiを推したSCSKの協力のもと行われた。IT企画管理本部 情報技術部 部長の家入 孝夫氏、情報技術部チームリーダーの関 健太郎氏、時松 基氏、五井野 治香氏にIvanti選定の経緯や導入効果を聞いた。

東洋エンジニアリングは旧バージョンのWindows OSのサポート切れに伴い、社内で保有する2,000台以上のPCのOSを最新バージョンのWindows OSに移行する社内プロジェクトを立ち上げた。家入氏によると同社は「プラントの設計から資器材の調達、建設までのプロジェクトを、定められたコストとスケジュールの制約の中で実行する“プロジェクトマネジメント力”を最大のバリューとしている」という。今回の移行プロジェクトでは、社内ITを担当するIT企画管理本部のプロジェクトマネジメント力が試されることになった。

プラント建設は海外比率が高いのが特徴で、東洋エンジニアリングも取材当時の売上高ベースで、海外比率が8割を超えていた。同社では会社標準PC以外の利用を禁止しており、出張の際にもこの標準PCを持っていく規定となっている。そこで今回の移行プロジェクトでポイントとなったのが、海外に持ち出されたPCのサポートをどうするかということだった。

また、当面必要な約900台について、次年度春をめどにOS移行を終える必要があった。プロジェクト開始時すでに年度半

ばを過ぎており、実際に移行に費やせる期間は3カ月ほどである。更に、通常業務と並行してOS移行を実施しなければならず、残された時間が限られていたため、当時移行プロジェクトのチームリーダーだった時松氏は、移行期間を短縮するための新たなツールを導入することにし、旧バージョンのWindows OSから最新バージョンのWindows OSへの移行をターゲットとした提案をベンダー各社に依頼した。



東洋エンジニアリング
IT企画管理本部
情報技術部
部長
家入 孝夫 氏



東洋エンジニアリング
IT企画管理本部
情報技術部
チームリーダー
関 健太郎 氏



東洋エンジニアリング
IT企画管理本部
情報技術部
時松 基氏



東洋エンジニアリング
IT企画管理本部
情報技術部
五井野 治香 氏

各社から様々なツールが提案されたが、未確定要素が多く技術的な展開が心もとないものや、技術的には問題無いが手作業が多くスケジュール的に厳しいもの、ツール自体のコストは安いマイグレーションに伴う作業コストが高いなど一長一短があった。その中で、ソフトウェアの配信、パッチの配信、PC設定、プロファイル移行等に関して、自動で設定できる範囲が広くマイグレーションの作業期間を短縮できる、海外にあるPCへのリモートサポートが可能という2つの課題をクリアできた点が決め手となって、SCSKが提案するIvantiを採用することを決めた。時松氏は「SCSKによるフォローが期待できることも選定理由のひとつになった」としている。

■通常業務と並行し、毎週末の作業で最新バージョンのWindows OSへ、約900台を、たった3カ月で移行

導入作業が始まったのが、年が明けた直後。約900台のマイグレーションを約3カ月で終わるスケジュールだ。移行対象のPCは、社員が通常業務に使用しているものが多く、ウィークデーに作業を行うと業務に支障が出る。そこでPCが使われていない週末に移行作業を行うことにした。「毎週末を移行作業に充てたことで、SCSKの担当者にもずいぶんご苦労をかけた」（五井野氏）

結果、ほぼ見込み通りのスケジュールで予定していたすべてのPCを最新バージョンのWindows OSに移行することができた。

このように、当初はマイグレーションツールとして採用したIvantiだが、実は様々なPC管理機能を搭載している。マイグレーションを終えると情報技術部では「せっかく各PCにインストールしたのだから」と、Ivantiのその他の有用な機能を使い切ることになった。現在は、選定時から見込んでいた機能であるリモートサポートに加え、年4回実施しているPCのパッチ当て作業やPCのキitting作業などにもIvantiを活用している。それぞれの使い道での効果を紹介する。

IT企画管理本部では社員からのサポート要請に対して、電話での対応を行っていた。音声だけでは伝わりにくいことも多くあり、埒があかない時にはスタッフが現場に駆け付けることもしばしば。要請した社員にとっては、スタッフが現場に到着するまでの時間はもったいなく、非効率な対応となっていた。遠隔から対象のPCをコントロールできるリモートサポート機能を活用してみると、多くの場合、インシデントを解決できるという大きな改善が見られた。スタッフが現場に駆け付ける回数も激減し、効率的なサポート体制を構築することにつながった。時松氏によると、「リモートサポートは、海外出張中の社員からも評判が良い」のだという。海外の現場に駆け付けるわけにはいかないため、これまでは電話で、状況を正確に把握できないまま手探りで対応していた。リモートサポートでは、PCの状況が可視化され、本社と同じ条件でサポートが受けられるため適切な対応が取れるようになったという。

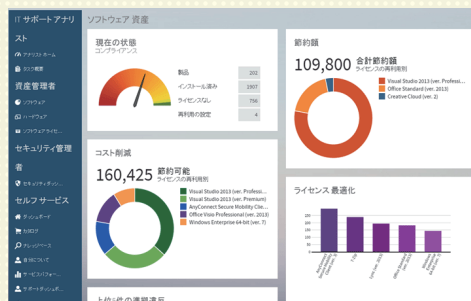
年4回行っているパッチ当ての作業にも重宝しているという。これまではPCをキittingするタイミングに合わせて、1台1台にパッチを当てていたため、中には「しばらくパッチを当てていない」というPCが存在していた。Ivanti導入後は、パッチの自動配布機能を使ってすべてのPCにパッチを当てられるようになった。インベントリ情報の収集機能を利用して、どのPCにパッチを当てていないかがわかるようになり、取りこぼしがないようになった。「少々手間はかかる」（時松氏）が、前もって設定しておけば、パッチ当ての作業が現在どれだけ進行しているかが、自動的に把握することも可能になるという。

面倒なキitting作業にも活用している。以前は海外プロジェクトの場合、現地でPCを購入するなど、その場その場で対応することが多かった。しかし、セキュリティ上の問題もあるため、現在は原則として会社保有の標準PCで賄うことにしている。海外出張者の数が多いため、毎月のキitting作業は平均70台にのぼる。以前は、カスタマイズ作業に多くの時間を使っていたが、Ivantiのソフト配布機能などを使うことで大幅に省力化できている。

■Ivantiが提供する豊富な機能を使い切るのが目標

Ivantiは豊富な機能を搭載しており、東洋エンジニアリングがまだ使っていない機能は山のようにある。それをこれからどんどん掘り起こしていった、使い切るのが情報技術部の目標だ。例えば、Ivantiの主要機能として知られる資産管理機能なども今のところ手つかずの状態だ。これに関連して時松氏は「メータリング機能のレクチャーを受けた」という。メータリング機能とは、ソフトウェアの使用状況を収集、分析する機能で、インストールしているにも関わらず使用頻度の低いソフトの検出の仕方を学んだそうだ。「これはライセンスの棚卸に使えるのでは」と考えているという。

ソフトウェアの稼働を管理 Ivantiのメータリング機能画面



また、社員が承認された新たなアプリケーションをPCにインストールする際、以前は情報技術部からCD-ROMなどのメディアで貸し出していた。現在は管理者権限を持つ情報技術部の承認を得れば、ポータルからダウンロードしてインストールできるようになった。しかし、時松氏は「今後必要なソフトが出てくるたびに承認作業を行っていたのでは、効率が悪すぎる。将来的には承認からインストールまでを自動化できるような仕組みを、Ivantiで構築できれば」と考えている。

五井野氏は、このように新しい機能を次々と使っていくためには「SCSKさんのサポートは欠かせない」とベンダーによるサポートの重要性も訴えている。最後に、チームリーダである関氏は「情報システムを取り巻く環境は、激変している。例えば最近ではOffice365を使い始めるなどクラウドへの対応も進んでおり、今までの体制ではとても対応しきれなかったでしょう。そういった意味でも、今や情報技術部にとってIvantiは手放すことのできないツールになっています」と実感を語った。

※記載の情報は、取材日現在の情報です。

※本書ではLANDESK(旧ブランド)から、Ivanti(現行ブランド)に変更になった絡みで、現行ブランドに統一させた記述をおこなっております。

本書記載内容に関するお問い合わせ

SCSK SCSK株式会社
http://www.scsk.jp/



ITプロダクト&サービス事業本部 ネットワーク部

〒135-8110 東京都江東区豊洲3-2-20 豊洲フロント
TEL 03-5166-2595 / FAX 03-5859-3102
E-mail : scsk-ivanti-sales@ml.scsk.jp
Ivanti Web : http://www.scsk.jp/sp/ivanti/

本書記載の製品名および会社名は各社の商標または登録商標です。記載内容(製品仕様など)は、改良のため予告なしに変更する場合があります。